

# 水の文化 お茶の

# 間力

ま  
りよく



- 角山 栄「茶の社会史」
- 熊倉功夫「社交をつくる喫茶文化」
- 佐伯順子「遊ぶ芸から見る芸へ」
- 水の文化楽習実践取材「遊ぶお茶は現代の講」
- 黒川光博「守るべきはもてなしの心」
- 編集部「中国茶 もてなされ写真紀行」
- 水野俊作「茶葉で飲むか、ドリンクで飲むか」
- 角山 栄「お茶が生み出すもてなし関係」
- 編集部「お茶の間力」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「茶」

水の文化 January 2004 No. **16**

水の文化  
2004  
16



## ミツカン水の文化センター

表紙上：遠赤外線の効果はいろいろ語られているが、裸火の色、匂い、じんわりと伝わる緩かさなどが五感に訴えかける効果は、気づかぬうちに肩から力を抜いてくれる。  
 表紙下：極上の味を引き出すために、一葉一葉で縫（よ）られた茶葉を振舞うことで、もてなしの気持ちは一層高まる。  
 裏表紙上：最近、縁側が見直されている。縁側は、内と外をつなぐ中間の性格を持った場所。採光や換気といった機能のことだけでなく、コミュニケーションの場ということからも重要な空間だ。  
 裏表紙下左：日本の最古の茶園といわれる日吉茶園は、近江坂本の日吉神社の境内にあったとされるが、その伝承は明らかではない。現在は、京阪線、坂本駅の脇にわずかに残る。日吉大社は最澄が延暦寺の鎮守とした神社で、山王祭には古くから茶が献じられている。  
 裏表紙下中：ひざまずいてサービスする、上海の茶館。このサービス方法は日本の影響といわれているのだが、中国でももてなしがマニュアル化しつつあることを物語っているのかもしれない。  
 裏表紙下右：軒から外れたところにある囲炉裏は、見知らぬ人同士の距離を急速に縮める働きを持っている。

